

えきまえじょうかく
 ソウル市地下鉄8号線・夢村土城駅



オリンピック公園から見た城跡（国旗ポールの向こう；北東方向を見る）

夢村土城 (モンチョントソン)

城郭研究室では休日を利用し親睦会を兼ねて韓国旅行に行きました。仁川国際空港は予想以上に大きく、市街は数年前に「IMF時代」と言われたのが嘘のような活気。それでも景気はかなり悪いのだと言います。

ソウル近辺にはいくつもの城跡があります。しかし旅行中の自由時間を使っていろいろ見るには時間的な制約が大きくなります。それでも短時間で見学可能な場所を紹介します。

この国の経済成長は「漢江の奇跡」と言われ、新興工業国の旗頭でありました。その象徴ともいべきイベントがソウル五輪でした。ソウル市内の漢江南岸は、この五輪開催決定によって主要競技場などの建設に伴って開発が一気に進んだ新しい町ときいています。

ここに紹介する夢村土城も、五輪施設建設に伴ってソウル大学校博物館によって発掘された遺跡です。遺跡主要部は遺跡公園として復元整備されています。

夢村土城は漢江支流を取り込んでいわゆる外堀として、全周2キロ強の城壁をもつ邑城です。邑城とは、例えて言えば、姫路城下町とその総構みみたいなものです。異民族の侵略を受けることの多かった朝鮮半島では、これに山城が加わります。ソウル市地下鉄5号線「峨嵋山（アチャサン）」駅の近くには阿旦山（阿且山）城がありますが（未見）、日本人にはその麓にあるウォーカーヒルのカジノの方が有名です。

さて、夢村土城は、出土遺物から3世紀以降の築造と推定されています。これは漢城百濟時代の城郭ということになります。つまり、百濟が古代国家として成立していく頃の城郭ということになります。参考文献では馬具の出土に注目しています。これは高句麗の影響を強く受けて成立してきた国家であることを言いたいためでしょう。この公園付近には、集安の將軍塚に酷似した積石塚で知られる石村洞（ソクチョンドン）古墳群があり、これを見学すると高句麗文化の影響が実感できます。

<参考文献：『韓国の城郭』テウォン社>



城壁線の外側には木柵が復元されている。城壁は段築成されていて、下段上に柵列があったらしい。木材は残存していなかったが、その柱穴が確認され、復元されている。そのため、柵の高さなどは推定である。

日曜日の朝。多くの方がウォーキングやジョギングをしていた。整備された城壁ライン上は格好のコースとなっている。距離表示もあって、ジョギングをする人にはいい目安である。

一部城門跡らしい城壁の切れ目は避けてコース設定がされている。1周2.3キロと書かれていたから、この城壁の規模が想像できよう。

公園内には整備されていないエリアもあった。その中に日本人なら天守を建てるようなちょうどいい高まりがあった。立ち入りさせないようにロープが張ってあったが、椅子や時計やベンチプレス数台などがあってウエイトトレーニングができるようになっていた。案の定、ウォーキングしている人が入ってきて腕立てなんかを始めた。ここは運動公園でもあったのだ。



城壁上から北側の眺め。邑城とはいいいながら、日本で言えば「平山城」の範疇に分類される高さの城壁である。撮影位置の足下には岩盤が露出しているの、大きな岩山を利用して築城されているのかもしれない。

周辺には高層アパート群がいくつも屹立している。人口密度の高いこの都市では、こうしたアパートの購入も抽選の競争率が高く、難しいともいう。

このアパート群の中にも別の城跡が存在する。

夢村土城へは、ソウル市庁や鐘路など日本人観光客が泊まりそうな場所からは、まず蚕室（チャムシル）を目指し、そこで8号線に乗り換えとなります。市庁からw600。ここの地下鉄は外国人にはわかりやすく経済的な交通手段です。



"Shiro Fumi" No.33 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.